

軽・中度要介護高齢者の主介護者における介護満足感に関する要因の分析

○ 法政大学大学院人間社会研究科 張 夢瑤 (会員番号 8667)

法政大学 宮城 孝 (会員番号 1554)

キーワード：主介護者・在宅介護・満足感

1. 研究目的

家族介護者を対象とした研究では、介護負担感に重点をおくものが殆どである。また、生命保険文化センターが平成24年度行った調査（「生命保険に関する全国実態調査」）によると、高齢者の平均要介護期間は55.2ヶ月であり、4年以上介護した割合も4割を超えている。その4年9ヶ月間とは、決して短い期間ではなく、しかも要介護になった原因の殆どは一過性の病気ではないので、介護が介護者にもたらした生活の満足感・負担感は、介護継続意志に影響を与える重要な尺度と考えられる。つまり、主介護者にとって、日々の介護に対する満足感を向上させること、あるいは介護負担感をなるべく軽減させることは、日常の介護生活を続ける大きな支えになると推測できる。

要支援1・2、要介護1～3の高齢者の家族介護者にとって、「介護の初期」という段階において、不安を解消し、良い介護環境を作ることは非常に重要となる。介護生活への充実感や満足感を高める要因を分析し、在宅介護を長く続けることができる介護環境を模索することを、本研究の主な目的とする。本研究は、「高齢者在宅ケア継続システム研究プロジェクト」（研究代表 法政大学教授宮城孝）の一環として実施された。

2. 研究の視点および方法

調査方法：ケアマネジャーを通して、対象者への聞き取りによるアンケート調査と半構造化インタビュー調査を行う。

調査対象：関東圏地方都市A市、東北地方B市と、東京都C市の3つの地域に居住する65歳以上の要介護高齢者とその家族介護者を調査対象とする。A市は、J社会福祉法人が提供している居宅介護サービスの利用者全員を対象とし、B市とC市は、居宅介護サービスの利用者の内、要介護度別に比率を按分した層化二段抽出法を用いて、対象者を抽出した。なお、インタビューの対象は、A市の4名である。

実施期間：

アンケート調査		インタビュー調査
A市	平成25年7月から8月の約一ヶ月間	平成25年8月19日～21日
B市	同じく10月から11月の約一ヶ月間	
C市	同じく11月から12月の約一ヶ月間	

3. 倫理的配慮

調査対象者に対して、研究の趣旨及び方法、個人のプライバシーの保護、研究参加に対する利益・不利益を記載した依頼書を添付して、書面及び口頭で事前に説明を行い、同意を得る。本研究は、法政大学大学院人間社会研究科研究倫理委員会の承認を得たうえで、実施している。

4. 研究結果

調査票の回収数は 1,066 であり、その中で、本研究の対象者となる件数は、586 件である。「現在の介護生活に充実感や満足感はある」という質問について、回答の 4 件法の「とてもそう思う」、「ややそう思う」を「満足感あり」とし、「あまりそう思わない」、「そう思わない」を「満足感なし」とするダミー変数を作った。そして、すべての変数について、「満足感あり」と「満足感なし」の両群に分け、名義及び順序変数にはカイ二乗検定、連続変数には t 検定による比較を行う。各検定で統計的有意差 ($p < 0.05$) が示された項目に絞り、「満足感あり」か「満足感なし」を従属変数とする二項ロジスティック回帰分析を用いて、満足感を高める要因を分析し、下記の結果を得た。

主介護者の介護満足感に関連する要因							
	B	標準誤差	Wald	自由度	Exp(B)	n=568 EXP(B) の 95% 信頼区間	
						下限	上限
相談できる人の存在*	0.279	0.13	4.576	1	1.322	1.024	1.706
精神的に健康**	0.444	0.149	8.939	1	1.559	1.165	2.087
睡眠は十分*	0.328	0.13	6.382	1	1.388	1.076	1.791
要介護者と関係性は良い**	0.615	0.184	11.234	1	1.85	1.291	2.65
要介護者から感謝される*	0.312	0.146	4.586	1	1.367	1.027	1.819
介護をするから健康状態が悪くなった***	-0.452	0.124	13.278	1	0.636	0.499	0.811
定数	-5.032	0.877	32.95	1	0.007		

*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$
欠損ケース: 18 (3.1%)

5. 考察

上記の表が示しているように、「相談できる人の存在」は、主介護者にとって心強い存在であることがわかった。また、要介護者と介護者間の「関係性が良い」も、有意な関連が示された。そして、最も相関性を示した要因は、「健康状態」に関するものとなっている。すなわち、主介護者の健康維持は、介護の継続意志を強く左右するポイントと考えられる。

また、インタビューの結果として、「介護満足感」の向上は、「被介護者と介護者の絆」の強弱と深く関係するに対し、「介護満足感」の低下は、「手伝う人/相談できる人がいない」と深く関係しているという結果が得られた。